

IR資料

-2023年3月期-

2023年05月11日
ニプロ株式会社



目次

事業の概況	2
2022 年度 4Q 業績	3
販売費および一般管理費 主要科目	4
販売費および一般管理費 補足	5
販売費および一般管理費 研究開発費	6
為替影響を除いた損益比較	7
事業セグメント別 売上高・営業利益	8
セグメント業績 - ①医療関連事業（国内）	9
セグメント業績 - ①医療関連事業（国際）	10
セグメント業績 - ②医薬関連事業	11
セグメント業績 - ③ファーマパッケージング事業	12
セグメント別・製品群別の売上高	13
セグメント別・地域別の売上高	14
製品分類表	15
製商品別売上高	16、17
為替感応度	18
設備投資額・減価償却費	19
通期予想	20

事業の概況

製造・購買・物流

2022年度の工場稼働停止およびダイアライザライン(中国合肥、インド)の新設は下記。大館第5工場は一部生産ライン停止中。

2022												2023				
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5			
中国上海 ロックダウン影響 4/1～5/31 完全稼働停止		中国上海 6/1より 順次稼働再開		中国合肥 7/15 ダイアライザ 3ライン目 新規稼働				インド ダイアライザ 3ライン目 新規稼働				インド ダイアライザ 4ライン目 新規稼働		大館 第5工場 3/17火災発生 ダイアライザ生産ライン 一部損傷		

販売

- 透析用医療機器 : ダイアライザは中国、北米、日本で堅調、欧州は軟調に推移、透析装置は中南米、インドにて拡大
- 循環器用医療機器 : 中国でバルーンカテーテルとYコネクター、日本では薬剤溶出バルーンとNSE-PTCAバルーンカテーテルの販売が好調
- 外科用医療機器 : HeartMate 3や新製品の発売開始により血流計が堅調に推移
- 自社医薬品 : 経口剤は12月上市品のネキシウムAG販売が好調、注射剤は薬価UPと販売数量増加で大きく伸張
- 受託医薬品 : 海外はJMIファーマの販売が堅調に推移し、前年対比で増加
日本は顧客の在庫調整による受注減少や注射剤のスポット受注品の減少により、前年対比で減少
- ファーマパッケージング : 中国ではワクチン向けバイアル、シリンジが需要減少で軟調に推移するも、米国、フランス、日本で生地管、欧州ではアンプル、シリンジ、バイアルの販売が堅調

大館減産分の一部を新規稼働のインド2ライン、中国合肥1ラインなどで補填し、ダイアライザ全体の供給に支障を来さないよう尽力

臨床試験

臨床試験の実施や承認申請への大きな影響はなし

ニプロファーマに対する業務改善命令について（2月24日）

医薬品製造子会社であるニプロファーマが、秋田県から「医薬品医療機器等法」違反を理由とする業務改善命令を受けました。当社グループ全体で本命令を厳粛に受け止め、患者さまとご家族、医療関係者の皆さま、その他のステークホルダーの皆さまに多大なるご迷惑とご心配をおかけしましたことを深くお詫び申し上げますとともに、関係者の皆さまの信頼回復に向け、全力を挙げて是正措置を講じ、再発防止に努めてまいります。なお、本件による2023年3月期通期の連結業績に与える影響は軽微でした。

2022年度 業績

	2021年度	2022年度	増減額 (増減率)	2022年度 通期予想 5月時点 (達成率)	2022年度 通期予想 2月時点 (達成率)	2023年度 通期予想	四半期別業績推移				
							2022年度				4Q
							4Q	1Q	2Q	3Q	
売上高	4,947.8	5,451.9	+504.0 +10.2%	5,400.0 101.0%	5,490.0 99.3%	5,992.4	1,254.3	1,278.9	1,324.4	1,459.6	1,388.9
売上原価	3,455.1	3,817.4	+362.2 +10.5%	3,707.0 103.0%	3,820.0 99.9%	4,194.6	884.8	886.8	927.9	1,028.7	973.9
売上総利益 (※1)	1,492.6 30.2%	1,634.4 30.0%	+141.7 +9.5%	1,693.0 96.5%	1,670.0 97.9%	1,797.7 30.0%	369.4 29.5%	392.0 30.7%	396.5 29.9%	430.8 29.5%	415.0 29.9%
販売管理費	1,253.8 25.3%	1,457.2 26.7%	+203.3 +16.2%	1,418.0 102.8%	1,480.0 98.5%	1,557.7 80.5%	328.0 26.2%	362.5 28.3%	362.3 27.4%	362.7 24.9%	369.5 26.6%
営業利益	238.8 4.8%	177.2 3.3%	△61.5 △25.8%	275.0 64.4%	190.0 93.3%	240.0 4.0%	41.4 3.3%	29.5 2.3%	34.1 2.6%	68.0 4.7%	45.4 3.3%
経常利益 (※2)	275.8 5.6%	153.4 2.8%	△122.3 △44.4%	266.0 57.7%	184.0 83.4%	206.5 3.4%	70.3 5.6%	73.3 5.7%	42.6 3.2%	21.6 1.5%	15.7 +1.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	134.5 2.7%	45.7 0.8%	△88.8 △66.0%	156.0 29.3%	100.0 45.7%	112.0 1.9%	24.1 1.9%	52.7 4.1%	9.7 0.7%	7.0 0.5%	△23.8 △1.7%
IFRSに準拠した場合の 当期純利益(概算額)	160.5	62.7	△97.8 △60.9%	185.0 33.9%	129.0 48.6%	133.0 2.2%	(※1) 売上総利益への 未実現利益の影響額 2021年度 △21.7億円 2022年度 △6.8億円 (※2) 為替損益 2021年度 +48.3億円 2022年度 +21.2億円				

- **売上高** 医療機器、国内医薬、ファーマパッケージングは売上増加。医薬品受託は売上減少。国内外において製造原価と物流費によるコスト増を製品へ価格転嫁したこと、海外売上高が円安の効果で対前年増収。
- **売上総利益** 原材料費、エネルギー費高騰の価格転嫁が十分に実施できておらず、売上総利益率は微減。
- **営業利益** 海外の運送費が12月から減少傾向も、研究開発費、販促費、旅費交通費、賃借料等の販管費増が大きく影響し、営業利益は対前年で減少。
- **経常利益** 前年には解約保証金を計上、為替差益は対前年で27億円減少、今年度に欧州子会社でインフレーション会計適用による営業外費用を計上したことから、経常利益は対前年で減少。
- **当期純利益** 繰延税金資産の取り崩し等による税調整額38億円計上もあり、当期純利益は対前年で減少。

販売費および一般管理費 主要科目

	2021年度 単位:億円	2022年度		増減	増減率	2022年度 通期予想 (5月時点)	2022年度 通期予想 (2月時点)	2023年度 通期予想
		実績	構成比					
人件費	411.0	416.5	28.6%	+5.5	+1.3%	442.5	440.3	474.2
研究開発費(※1)	186.5	212.9	14.6%	+26.4	+14.2%	197.5	200.0	190.5
運送費	126.5	210.1	14.4%	+83.6	+66.1%	215.0	220.5	186.4
償却費(※2)	115.1	124.6	8.6%	+9.5	+8.3%	108.0	121.3	115.3
販促費(※3)	82.3	99.5	6.8%	+17.2	+20.9%	92.0	102.0	102.0
旅費交通費	33.3	47.5	3.3%	+14.2	+42.6%	34.0	44.8	47.2
保管料	30.6	34.9	2.4%	+4.3	+14.1%	27.0	34.0	35.3
上記以外の科目	268.2	310.6	21.3%	+42.4	+15.8%	302.0	317.1	406.6
合計	1,253.8	1,457.2	100.0%	+203.4	+16.2%	1,418.0	1,480.0	1,557.7

(※1) 研究開発費・試験研究費・開発償却費

(※2) 減価償却費・のれん償却費

(※3) 販売手数料・見本品費・広告宣伝費・交際接待費

- **人件費** 人員増に伴い対前年で増加するも、国内主要子会社において業績連動に伴う決算賞与の調整により対前年微増。2023年度は海外における物価上昇に対応した賃金増により、人件費が増加する予想。
- **運送費** 海外における運送費は12月以降徐々に下落傾向にあるものの、通期での累積増が影響し対前年で大きく増加。相場下落により、2023年度の運送費は減少する予想。
- **販促費** 海外子会社における販売が好調に推移したことに伴い見本品費、販売手数料が増加。また、コロナ影響の緩和に伴い交際接待費が増加傾向。2023年度はコロナ影響が更に緩和される見込みであり、販促費は微増する予想。
- **旅費交通費** コロナ影響緩和に伴い対面での営業活動や出張を徐々に再開していることから対前年で増加。2023年度についても当期と同程度で推移する予想。
- **上記以外の科目** 次スライドにて主な増加要因を補足説明。

販売費および一般管理費 補足

	2021年度	2022年度	増減	増減率	2022年度 通期予想	2023年度 通期予想
支払手数料	44.1	52.3	+8.2	18.6%	63.9	62.6
賃借料	35.5	49.0	+13.5	38.0%	59.1	60.6
租税公課	21.9	26.5	+4.6	21.0%	19.0	19.4
貸倒引当金繰入額	5.8	14.4	+8.6	148.3%	5.7	6.7
会議費	3.3	7.3	+4.0	121.2%	4.6	9.2
その他	156.6	159.7	+3.1	2.0%	164.8	248.1
計	267.2	309.2	+42.2	15.9%	317.1	406.6

- **支払手数料** カテーテル製品の製造・販売増に伴い、外部への取扱手数料が対前年で増加。
- **賃借料** 期中に国内医療機器、医薬品物流倉庫の移転・拡大を実施し、対前年で賃借料が増加。
- **租税公課** 土地の売却により課税売上割合が例年より低下したことに伴い、控除対象外消費税が増加。
- **貸倒引当金繰入額** 欧州販売会社の取引先に与信懸念が発生したことにより新規繰入が発生。対前年で増加。
- **会議費** 新型コロナ影響の緩和に伴い対面での会議が再開され始めており、対前年で会議が増加。

販売費および一般管理費 研究開発費

【研究開発費(内訳)】

単位:億円	2021年度	2022年度	2022年度 通期予想 (5月時点)	2022年度 通期予想 (2月時点)	2023年度 通期予想
医療	84.2	90.4	87.5	86.0	88.1
医薬	98.8	119.1	108.0	108.5	99.5
ファーマ パッケージング	3.4	3.4	3.5	5.5	2.9
合計	186.5	212.9	199.0	200.0	190.5

- **医療** 透析情報管理システムの開発プロジェクトが通期で進行していたことに加え、薬剤溶出ステントの治験をはじめとする複数の治験費用を計上し、対前年で増加。
- **医薬** 経口剤開発関連の費用が減少するも、開発用原薬の購入費用に加え各種治験の費用を計上したことにより対前年で増加。
- **PP** 新たなガラス製品の開発費用等を計上し、対前年同程度での着地となった。

2023年度は医療関連、ファーマパッケージング関連が当期並みの水準で推移する見込みであるも、医薬関連が減少することにより研究開発費全体では微減する予想。

為替影響を除いた損益比較

	2021年度	2022年度	為替の影響 (※)	影響を除いた 2022年度	増減率
単位：億円	[a]	[b]	[c]	[d=b-c]	[d÷a]
売上高	4,947.8	5,451.9	+295.0	5,156.9	+4.2%
売上原価	3,455.1	3,817.4	+172.5	3,644.9	+5.5%
売上総利益	1,492.6	1,634.4	+122.5	1,511.9	+1.3%
(%)	30.2%	30.0%		29.3%	
販管費	1,253.8	1,457.2	+73.3	1,383.9	+10.4%
営業利益	238.8	177.2	+49.2	128.0	△46.4%
(%)	4.8%	3.3%		2.5%	
営業外収益	105.2	73.0	△27.0	100.0	△4.9%
営業外費用	68.2	96.8		96.8	
経常利益	275.8	153.4	+22.2	131.2	△52.4%
特別利益	8.4	57.7		57.7	
特別損失	51.8	43.4		43.4	
税引前利益	232.4	167.7	+22.2	145.5	△37.4%
法人税等	81.7	108.4	+14.3	94.1	+15.1%
非支配株主に 帰属する純利益	16.1	13.6		13.6	
当期利益	134.5	45.7	+7.9	37.8	△71.9%

※ 昨年レートとの差額で外貨取引合計を円換算
円貨取引における為替の影響は考慮していません

期中平均レート	2021年 1~12月	2022年 1~12月	期末レート	2020年 12月	2021年 3月	2021年 12月	2022年 3月	2022年 12月	2023年 3月
1 USD	110.37	132.08	1 USD	103.50	110.71	115.02	122.39	132.70	133.53
1 EUR	130.34	138.52	1 EUR	126.95	129.80	130.51	136.70	141.47	145.72
1 中国元	17.12	19.50	1 中国元	15.88	16.84	18.06	19.26	19.01	19.42

事業セグメント別 売上高・営業利益

売上高		【増減額】	【増減率】	2022年度 通期予想 (5月時点)	2022年度 通期予想 (2月時点)	2023年度 通期予想
医療関連事業		+464.7	+12.4%	4,095.0	4,206.0	4,602.0
2022年度	4,199.5					
2021年度	3,734.8					
医薬関連事業		△16.5	△2.2%	790.0	762.0	797.0
2022年度	727.3					
2021年度	743.8					
ファーマパッケー ジング事業		+53.9	+11.6%	512.0	515.0	589.1
2022年度	517.5					
2021年度	463.6					

営業利益		【増減額】	【増減率】	2022年度 通期予想 (5月時点)	2022年度 通期予想 (2月時点)	2023年度 通期予想
医療関連事業		△6.4	△1.6%	407.0	412.0	433.1
2022年度	385.9					
2021年度	392.4					
医薬関連事業		△42.1	△42.8%	99.0	29.0	71.7
2022年度	56.1					
2021年度	98.2					
ファーマパッケー ジング事業		△1.5	△5.2%	33.0	28.0	23.2
2022年度	27.3					
2021年度	28.8					

- 医療関連事業 売上は伸長するも、原材料費と電力料、海外における運送費高騰に加え、販売手数料と旅費交通費が売上成長以上に増加したことにより、6.4億円の営業減益。
- 医薬関連事業 売上減少に加え、原材料費と電力料・水道光熱費の高騰により、42.1億円の営業減益。
- ファーマパッケージング事業 売上は伸長するも、原材料費の高騰に加え、アメリカやドイツでの生産設備の投資に伴う償却費の増加より、1.5億円の営業減益。

セグメント業績 - ①医療関連事業（国内）

		単位：億円	【増減額】	【増減率】	2022年度 通期予想 (5月時点)	2022年度 通期予想 (2月時点)	2023年度 通期予想
国内事業	2022年度	2,168.1	+142.	+7.0%	2,220.0	2,174.0	2,423.7
	2021年度	2,025.8					
医療機器	2022年度	1,194.8	+42.7	+3.7%	1,258.5	1,190.0	1,314.2
	2021年度	1,152.1					
医薬品	2022年度	973.3	+99.6	+11.4%	961.5	984.0	1,109.5
	2021年度	873.7					
ダイアライザ 国内 売上高	2022年度	223.1	+2.6	+1.2%	229.6	225.4	230.4
	2021年度	220.5					

- 医療機器**

ダイアライザは、販売が堅調に推移し、前年対比で2.6億円増加。
透析機器は、販売が好調で、前年対比で4.1億円増加。
透析関連の消耗品は、新規顧客の獲得や透析機器の販売増に伴い販売が堅調に推移し、前年対比で4.2億円増加。
注射針類は、新規顧客の獲得による翼付針の販売が増加し、前年対比で4.4億円増加。
カテーテル類は、コロナ影響に左右されつつも、手術件数が戻りつつあるため、主力製品の薬剤溶出バルーンや新製品のNSE-PTCAバルーンカテーテルの販売が増加し、前年対比で31.7億円増加。
外科用製品は、新規移植登録患者の増加や長期在宅補助人工心臓治療への適応拡大により、HeartMate 3の販売増加に加え、新製品の発売開始により、血流計の販売が増加し、前年対比で4.8億円増加。
- 国内医薬**

経口剤の既存品は、販売数量が増加したものの、薬価減少分をカバーできず、販売減。一方で12月上旬品であるネキシウムAGの販売好調により、経口剤トータルでは前年対比で41.2億円増加。
注射剤は抗生物質製剤や輸液製剤において、不採算再算定品目の薬価が上がったことに加え、販売数量が増加したことにより、前年対比で54.9億円増加。

セグメント業績 - ①医療関連事業（国際）

		【増減額】	【増減率】	2022年度 通期予想 (5月時点)	2022年度 通期予想 (2月時点)	2023年度 通期予想	
		単位：億円					
国際事業	2022年度	1,982.9	+315.1	+18.9%	1,828.0	1,989.0	2,114.3
	2021年度	1,667.8					
B2B(他社ブランド)	2022年度	261.5	+28.1	+12.0%	229.9	222.5	291.9
	2021年度	233.4					
ニプロブランド	2022年度	1,721.2	+286.9	+20.0%	1,598.0	1,766.5	1,822.4
	2021年度	1,434.3					
アメリカ	2022年度	775.8	+155.3	+25.0%	694.1	773.1	797.6
	2021年度	620.5					
ヨーロッパ	2022年度	370.9	+8.8	+2.4%	359.8	411.4	396.5
	2021年度	362.1					
アジア	2022年度	306.9	+60.9	+24.8%	289.4	310.0	357.5
	2021年度	246.0					
中国	2022年度	267.5	+61.9	+30.1%	254.6	272.0	270.7
	2021年度	205.6					
ダイアライザ 海外 売上高	2022年度	639.8	+93.9	+17.2%	594.7	657.3	685.3
	2021年度	545.9					

● **B2B** 米州にて安全採血セットが好調、欧州では採血針好調もインスリン針が軟調であり、B2B全体では対前年24.1億円増加。

● **ニプロブランド** 円安進行の影響で、売上高は全体的に増加傾向。

ダイアライザの数量は、北米と中国で好調に推移。欧州はロシア-ウクライナ問題の影響で数量は引き続き軟調に推移するも、為替影響により販売額は増加。アジアでは概ね堅調に推移。国際事業全体で前年対比105.6億円増加。

透析装置は特に中南米で販売が好調に推移しており、米州全体で前年対比18.2億円増加。

インドでの透析治療体制を整備する政策が追い風となり販売好調、アジア全体で前年対比11.2億円増加。

欧州では供給体制の回復に伴い販売数がもどりつつあるが、前年対比では7.5億円減少。

その他透析関連については、特に中南米で透析センターの開設が進み、関連製品含め堅調に推移。

セグメント業績 - ② 医薬関連事業

		【増減額】	【増減率】	2022年度 通期予想 (5月時点)	2022年度 通期予想 (2月時点)	2023年度 通期予想
単位：億円						
医薬関連事業	2022年度 2021年度	727.3 743.8	△16.5 △2.2%	790.0	762.0	797.0
< 受託売上高内訳 >						
ジェネリック品	2022年度 2021年度	387.3 399.1	△11.8 △3.0%	400.6	409.2	402.6
先発品・ 長期収載品	2022年度 2021年度	224.6 255.4	△30.8 △12.1%	289.8	253.0	305.6
OTC・原薬・ 試作等	2022年度 2021年度	58.9 41.7	+17.2 +41.2%	46.7	43.2	33.0
JMIファーマ	2022年度 2021年度	56.4 47.5	+8.9 +18.7%	52.9	56.6	55.7

- **ジェネリック品** 経口剤は、新規受託品の販売開始等により、前年対比で5.5億円増加。
注射剤は顧客の品目整理や在庫調整に伴う受注減により、前年対比で14.7億円減少。
- **先発品・長期収載品** 経口剤は前年に鏡石工場被災などの影響により減少していたが、今年は回復し、前年対比で11.8億円増加。
注射剤は前年のスポット受注品である新型コロナワクチンや備蓄用インフルエンザ治療薬等が、今年受注がないため、前年対比で38.5億円減少。
- **OTC・原薬・試作等** バリデーション費用や設備の一時金収入の増加により、前年対比で17.2億円増加。
- **JMIファーマ** 医師へのプロモーション強化、慢性疾患製剤への注力により、前年対比で8.9億円増加。

セグメント業績 - ③ ファーマパッケージング事業

		単位：億円	【増減額】	【増減率】	2022年度 通期予想 (5月時点)	2022年度 通期予想 (2月時点)	2023年度 通期予想
ファーマパッケージング事業							
2022年度		517.5	+53.9	+11.6%	512.0	515.0	589.1
2021年度		463.6					
< 地域別売上高内訳 >							
日本	2022年度		+3.0	+2.6%	111.0	116.5	124.2
	2021年度						
海外	2022年度		+50.9	+14.6%	401.0	398.5	465.0
	2021年度						
ヨーロッパ	2022年度		+38.3	+22.5%	195.5	208.2	251.5
	2021年度						
アメリカ	2022年度		+28.7	+30.3%	105.0	123.0	136.2
	2021年度						
中国	2022年度		△19.7	△27.7%	87.0	51.3	57.5
	2021年度						
インド	2022年度		+3.5	+28.5%	13.5	16.0	19.7
	2021年度						

- **日本** 生地管の販売価格転嫁が進み、前年対比1.6億円増加。
新型コロナウイルスの影響により検査用スポンジスワブの販売が増加し、検査製品全体で前年対比2.4億円増加。
- **海外** 欧州では、生地管がフランスの窯の操業度回復により、前年対比6.4億円増加。
アンプルは販売が堅調であり、前年対比で12.1億円増加。
シリンジは販売価格へのコスト転嫁が進み、前年対比7.9億円増加。
バイアルは堅調な出荷に加え販売価格の引き上げもあり、前年対比5.8億円増加。
アメリカでは、生地管が生産能力の向上と円安進行により、前年対比14.1億円増加。
中国では、ワクチン向け製品の減少によりバイアルは前年対比で19.2億円減少、シリンジは前年対比1.6億円減少。

セグメント別・製品群別の売上高

製品	セグメント	医療関連 事業	医薬関連 事業	ファーマパッケー ジング事業	その他 事業	合計
		単位：億円				
医療機器	2022年度	3,122.0	0.0	34.0	0.0	3,156.0
	2021年度	2,780.9	0.0	30.6	0.0	2,811.5
医薬品	2022年度	1,076.5	727.3	4.2	0.0	1,808.1
	2021年度	953.1	743.8	4.3	0.0	1,701.4
ファーマ パッケージング	2022年度	0.6	0.0	477.0	0.0	477.6
	2021年度	0.2	0.0	427.3	0.0	427.6
その他	2022年度	0.3	0.0	2.2	7.5	10.1
	2021年度	0.4	0.0	1.1	5.5	7.2
合計	2022年度	4,199.5	727.3	517.5	7.5	5,451.9
	2021年度	3,734.8	743.8	463.6	5.5	4,947.8

(※1) 自社ジェネリック医薬品

(※2) 受託製造医薬品

(※3) 注射針類、輸液関連製品、検査製品

セグメント別・地域別の売上高

セグメント		医療関連 事業	医薬関連 事業	ファーマパケ ージング事業	その他 事業	合計
地域	単位：億円					
日本	2022年度	2,107.8	667.7	118.6	7.5	2,901.7
	2021年度	1,989.8	690.6	114.8	5.5	2,800.9
海外計	2022年度	2,091.6	59.5	398.9	0.0	2,550.2
	2021年度	1,744.9	53.1	348.7	0.0	2,146.9
アメリカ	2022年度	860.1	0.0	120.7	0.0	980.8
	2021年度	691.4	0.2	90.7	0.0	782.4
ヨーロッパ	2022年度	477.1	1.1	204.6	0.0	682.9
	2021年度	430.4	3.1	170.1	0.0	603.7
中国	2022年度	334.2	0.2	50.3	0.0	384.7
	2021年度	259.9	0.3	66.7	0.0	327.0
その他アジア	2022年度	420.1	58.2	23.1	0.0	501.5
	2021年度	363.1	49.3	21.2	0.0	433.7
合計	2022年度	4,199.5	727.3	517.5	7.5	5,451.9
	2021年度	3,734.8	743.8	463.6	5.5	4,947.8

● **地域別** 2022年度の地域別売上高比率は国内53.2%、海外46.8%であり、いずれの地域も販売は堅調。

● **セグメント別** 医療関連事業は、国内・海外共にダイアライザや透析関連製品、注射針類、カテーテル類、外科用製品、経口剤、注射剤・輸液の販売が堅調。

医薬関連事業は、海外はJMIファーマの販売が堅調に推移するも、日本では顧客の在庫調整による受注減少や注射剤のスポット受注品の減少により、前年対比で減少。

ファーマパッケージング事業は、中国ではワクチン向けバイアル、生地管の需要が減少するも、アメリカでは生地管、欧州では生地管、アンプル、シリンジ、バイアルの販売が堅調。



製品分類表

医療機器区分	
ダイアライザ	ダイアライザ（人工腎臓透析器）、HDFフィルター
透析機器	透析システム、メンテナンス、透析機器部品
その他透析関連	血液回路、AVFコードル（翼付留置針） 他
注射針類	PSVコードル（翼付留置針）、セーフタッチコードル 他
バスキュラー関連製品	循環器治療用カテーテルセット、血栓吸引カテーテル 他
輸液関連製品	輸液セット、IVカメラ 他
検査製品	ネオチューブ、採血針 他
糖尿病関連製品	インスリン針、血糖測定器（海外向け）、ランセット
SD関連製品	補助人工心臓、人工肺、整形外科製品
その他	医療器械、血液関連製品、培養商品、手袋 他
医薬品区分	
経口剤	経口剤
注射剤・輸液	シリンジキット、バイアル製剤、PLW、粉末透析剤、透析液 他
外用剤・貼付剤	外用剤、貼付剤
その他・体外診断薬 等	診断薬、医薬品、血糖測定器 他
ファーマパッケージング区分	
生地管関連	医薬用生地管、非医療用生地管、硝子原料
アンプル硝子	アンプル（シングルチップ、ダブルチップ）
バイアル硝子	バイアル（ブローバック、スクリュウ、滅菌済等）
シリンジ硝子	シリンジ（ルアーロック、ルアースリップ、滅菌済等）
ゴム栓・栓体類	ゴム栓、栓体、栓・キャップ類
プラスチック容器	プラスチック品
魔法瓶	魔法瓶用硝子
その他	硝子容器その他、特殊硝子容器、カートリッジ硝子その他など

製商品別売上高（1）

事業分類	単位：億円	全社				海外				日本			
		2021年度	2022年度	増減額	増減率	2021年度	2022年度	増減額	増減率	2021年度	2022年度	増減額	増減率
【医療機器】	ダイアライザ	766.5	863.0	+96.5	+12.6%	545.9	639.8	+93.8	+17.2%	220.5	223.1	+2.6	+1.2%
	透析機器	212.4	224.9	+12.4	+5.9%	131.4	139.7	+8.3	+6.3%	81.0	85.1	+4.1	+5.1%
	その他透析関連	352.0	465.8	+113.8	+32.3%	274.0	383.7	+109.6	+40.0%	77.9	82.1	+4.1	+5.3%
	透析関連製品計	1,331.0	1,553.7	+222.7	+16.7%	951.4	1,163.3	+211.8	+22.3%	379.5	390.4	+10.9	+2.9%
	注射針類	413.9	486.3	+72.3	+17.5%	258.1	326.0	+67.9	+26.3%	155.8	160.2	+4.4	+2.8%
	バスキュラー関連製品	319.9	351.7	+31.7	+9.9%	47.1	70.0	+22.8	+48.4%	272.7	281.6	+8.8	+3.3%
	輸液関連製品	167.0	181.2	+14.2	+8.6%	54.1	69.3	+15.1	+28.0%	112.8	111.9	△0.8	△0.8%
	検査製品	109.7	119.8	+10.0	+9.2%	75.4	84.8	+9.3	+12.5%	34.3	34.9	+0.6	+2.0%
	糖尿病関連製品	89.6	89.0	△0.5	△0.7%	74.8	75.8	+0.9	+1.2%	14.7	13.2	△1.5	△10.3%
	SD関連製品 (※1)	60.6	72.2	+11.5	+19.0%	8.5	15.3	+6.7	+79.3%	52.1	56.8	+4.7	+9.1%
	その他	316.9	297.9	△18.9	△6.0%	195.0	182.5	△12.4	△6.4%	121.9	115.4	△6.5	△5.3%
部門計	2,808.9	3,152.2	+343.2	+12.2%	1,664.8	1,987.3	+322.4	+19.4%	1,144.1	1,164.9	+20.7	+1.8%	
【医薬品(自社)】	経口剤	391.5	432.8	+41.3	+10.5%	0.2	0.4	+0.1	+48.0%	391.2	432.4	+41.1	+10.5%
	注射剤・輸液	403.5	482.0	+78.5	+19.5%	76.3	100.0	+23.6	+31.0%	327.1	381.9	+54.8	+16.8%
	外用剤・貼付剤	66.3	66.5	+0.1	+0.2%	-	-	-	-	66.3	66.5	+0.1	+0.2%
	その他・体外診断薬等	91.7	95.1	+3.3	+3.7%	3.1	2.9	△0.1	△5.6%	88.5	92.1	+3.5	+4.0%
	部門計	953.1	1,076.5	+123.3	+12.9%	79.7	103.4	+23.6	+29.6%	873.3	973.1	+99.7	+11.4%
【再生医療】	再生医療等製品	2.6	3.8	+1.2	+47.5%	-	-	-	-	2.6	3.8	+1.2	+47.5%

(※1) 今年度より【医療機器】のうち、「その他」に分類されていた整形外科製品を「SD関連製品」に再分類しています。

製商品別売上高（2）

事業分類	単位：億円	全社				海外				日本			
		2021年度	2022年度	増減額	増減率	2021年度	2022年度	増減額	増減率	2021年度	2022年度	増減額	増減率
【医薬品(受託)】	経口剤	294.4	310.5	+16.0	+5.5%	1.0	0.4	△0.5	△53.4%	293.4	310.0	+16.6	+5.7%
	注射剤・輸液	324.3	270.6	△53.7	△16.6%	2.2	1.4	△0.7	△34.9%	322.1	269.1	△52.9	△16.4%
	外用剤・貼付剤	55.2	48.1	△7.1	△12.9%	0.8	0.5	△0.3	△37.8%	54.4	47.6	△6.7	△12.5%
	その他・体外診断薬 等	26.5	45.8	+19.2	+72.2%	1.5	0.6	△0.9	△59.1%	25.0	45.1	+20.1	+80.3%
	部 門 計	700.6	675.1	△25.5	△3.6%	5.6	3.0	△2.5	△45.3%	695.0	672.0	△23.0	△3.3%
【医薬品(JMIP)】	経口剤	47.0	55.9	+8.9	+19.1%	47.0	55.9	+8.9	+19.1%	-	-	-	-
	注射剤・輸液	0.5	0.4	0.0	△11.6%	0.5	0.4	0.0	△11.6%	-	-	-	-
	部 門 計	47.5	56.4	+8.9	+18.7%	47.5	56.4	+8.9	+18.7%	-	-	-	-
【ファーマ パッケージング】	生地管関連	94.7	117.7	+22.9	+24.2%	73.6	94.9	+21.3	+29.0%	21.1	22.7	+1.6	+7.8%
	アンプル硝子	50.1	67.2	+17.1	+34.2%	49.9	67.0	+17.1	+34.2%	0.1	0.1	0.0	+22.0%
	バイアル硝子	166.8	168.8	+1.9	+1.2%	149.8	151.8	+1.9	+1.3%	17.0	17.0	0.0	+0.2%
	シリンジ硝子	53.7	61.4	+7.6	+14.2%	53.5	61.1	+7.5	+14.1%	0.2	0.3	0.0	+28.1%
	ゴム栓・栓体類	17.6	17.9	+0.3	+2.0%	5.0	5.7	+0.6	+13.6%	12.5	12.2	△0.3	△2.7%
	プラスチック容器	20.1	18.4	△1.7	△8.6%	0.0	0.0	0.0	△97.4%	20.1	18.4	△1.6	△8.3%
	魔法瓶	3.8	4.2	+0.3	+10.0%	-	-	-	-	3.8	4.2	+0.3	+10.0%
	その他	20.5	21.7	+1.2	+5.9%	16.5	18.4	+1.9	+11.8%	4.0	3.2	△0.7	△18.6%
	部 門 計	427.6	477.6	+49.9	+11.7%	348.6	399.1	+50.5	+14.5%	79.0	78.4	△0.5	△0.7%
【その他】	生産機械販売・不動産賃貸	7.2	10.1	+2.9	+40.6%	0.4	0.7	+0.2	+59.0%	6.7	9.3	+2.6	+39.4%
連結合計		4,947.8	5,451.9	+504.0	+10.2%	2,146.9	2,550.2	+403.2	+18.8%	2,800.9	2,901.7	+100.8	+3.6%

為替感応度

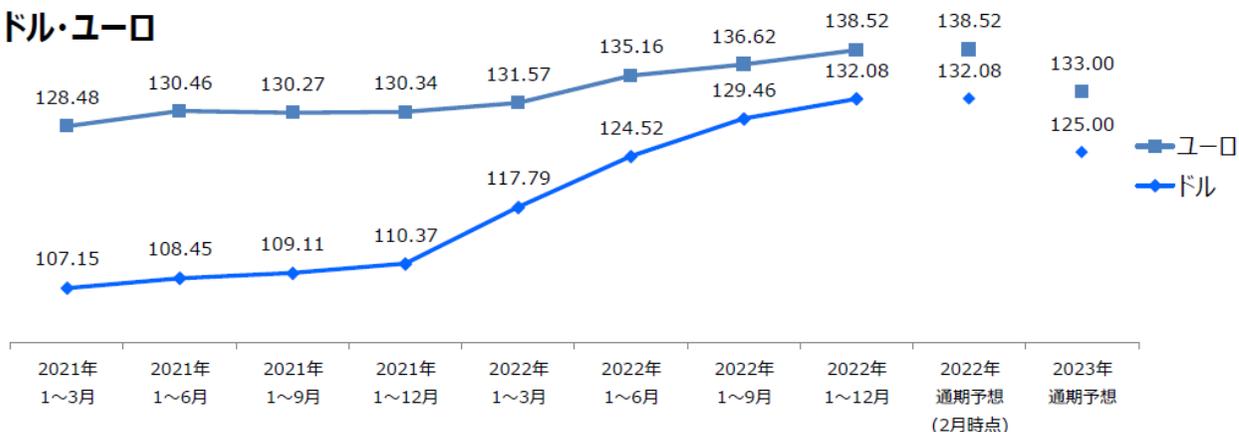
【1円変動による年間影響額】

(億円)

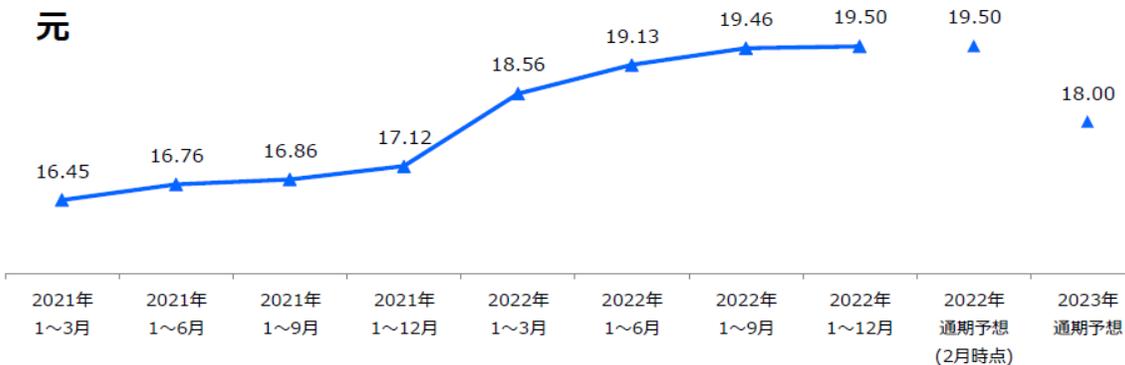
	ドル	ユーロ	元
売上高	8.7	4.6	19.5
営業利益	0.4	1.9	10.6

【期中平均レート】

ドル・ユーロ



元



設備投資額・減価償却費

	設備投資額					減価償却費				
	2021年度	2022年度	2022年度 通期予想 5月時点 (進捗率)	2022年度 通期予想 2月時点 (進捗率)	2023年度 通期予想	2021年度	2022年度	2022年度 通期予想 5月時点 (進捗率)	2022年度 通期予想 2月時点 (進捗率)	2023年度 通期予想
単位：億円										
医療関連	171.2	445.8	311.7 143.0%	430.0 103.7%	197.1	201.1	224.6	192.0 117.0%	216.5 103.7%	252.6
医薬関連	220.9	233.5	182.5 127.9%	187.5 124.5%	277.0	133.9	133.6	141.0 94.8%	133.0 100.5%	154.9
ファーマパッケージング	43.4	155.6	123.0 126.5%	179.0 86.9%	96.3	48.2	54.7	52.5 104.2%	53.0 103.2%	60.4
その他	30	124.8	15.0 832.0%	121.0 103.1%	50.9	49.7	49.6	36.5 135.9%	50.0 99.2%	55.7
合計	465.6	959.9	632.2 151.8%	917.5 104.6%	621.3	433.1	462.7	422.0 109.6%	452.5 102.3%	523.6

(※) 今年度より、設備投資額の表示形式を検収ベースから計上ベースに変更しております。

● 設備投資額

医療は引き続きダイアライザの大館第7工場建築費用の計上があり、対前年で大きく増加するも予算並みで着地。
2023年度は大館工場第7工場関連の費用が継続するも、インド・ベトナム・中国におけるダイアライザ新ラインも完成し、
通期の設備投資額は大きく減少予想。

医薬はニプロファーマ近江工場新設に関する設備費用が大きく、対前年、対予算を上回る実績で着地。
2023年度も引き続き近江工場関連の費用に加え、埼玉、大阪のQCセンター新設費用を計上し予定であり設備投資額は増加予想。

ファーマパッケージングはアメリカ、フランス、ドイツで各種ガラス製品製造設備の新設費用を計上したことにより対前年で大きく増加するも、
アメリカ、ドイツにおける一部の工事スケジュール見直しや支払時期の変動により対予算を下回る水準で着地。
2023年度はアメリカ、フランスの設備更新が一段落したことにより設備投資は大きく減少の予想。

● 減価償却費

各セグメント共に大きな工期遅延は無く設備が稼働開始しており、減価償却費は予算並みで着地。
2023年度は2022年度設備投資の大幅増を受けて減価償却費は増加する予想。

通期予想

医療関連事業

内訳	単位：億円	2022年度 実績	2023年度 通期予想	増減額	増減率
国内					
医療機器		1,194.8	1,314.2	+119.4	10.0%
医薬品		973.3	1,109.5	+136.2	14.0%
国際					
B2B		282.0	291.9	+9.9	3.5%
アメリカ		775.8	797.6	+21.8	2.8%
ヨーロッパ		350.4	396.5	+46.1	13.2%
アジア		306.9	357.5	+50.6	16.5%
中国		267.5	270.7	+3.2	1.2%
工場 直接販売		48.8	64.1	+15.3	31.4%
売上高計		4,199.5	4,602.0	+402.5	9.6%
営業利益		385.9	433.1	+47.2	12.2%
(同率)		9.2%	9.4%	-	-

医薬関連事業

内訳	単位：億円	2022年度 実績	2023年度 通期予想	増減額	増減率
GE品		387.3	402.6	+15.3	4.0%
先発・長期収載品		224.6	305.6	+81.0	36.1%
OTC・原薬他		58.9	33.0	△25.9	-44.0%
JMIファーマ		56.4	55.7	△0.7	-1.2%
売上高計		727.3	797.0	+69.7	9.6%
営業利益		56.1	71.7	+15.6	27.8%
(同率)		7.7%	9.0%	-	-

ファーマパッケージング事業

内訳	単位：億円	2022年度 実績	2023年度 通期予想	増減額	増減率
日本		118.1	124.2	+6.1	5.2%
ヨーロッパ		208.7	251.5	+42.8	20.5%
アメリカ		123.3	136.2	+12.9	10.5%
中国		51.3	57.5	+6.2	12.1%
インド		15.8	19.7	+3.9	24.7%
売上高計		517.5	589.1	+71.6	13.8%
営業利益		27.3	23.2	△4.1	-15.0%
(同率)		5.3%	3.9%	-	-

➤ 売上高

国内の医療機器は、PTCAバルーンカテーテル(スリッピング防止型)やYコネクター等のカテーテル製品に加え、高性能なHDFフィルターの販売が順調に推移する見込みであることから、対前年119.4億円増収予想

国内の医薬品は引き続きネキシウムAGの販売が堅調に推移する見込みであり、対前年136.2億円増収予想

アメリカでは、米国大手透析プロバイダー向けダイアライザ、透析液等の販売増、および中南米にて透析センターの新規開設にともなう販売増により対前年21.8億円増収予想
アジアでは、インドネシア向けダイアライザの販売増、ベトナム、フィリピンの本格稼働等により、対前年50.6億円増収予想

中国では、ダイアライザや透析装置の販売強化に加え透析センター事業拡大により、対前年3.2億円増収予想

ヨーロッパでは、透析装置の供給体制回復に加え透析関連製品の販売も堅調に推移する見込みであり、対前年で46.1億円の増収に転じる予想

➤ 営業利益

特に海外において運送費相場が下落傾向であることに加え、原材料高騰の価格転嫁も進めることで、対前年増益かつ営業利益率も改善する予想

➤ 売上高

GE品は市場全体の需要拡大により、対前年15.3億円増収予想
先発・長期収載品では、新規製剤の受託により、対前年81.0億円増収予想
OTC・原薬他では、バリテーションや設備の一時金収入の減少により、対前年25.9億円減収予想

JMIファーマでは、現地通貨ベースでは増収予想であるものの、為替変動の影響により、対前年0.7億円減収予想

➤ 営業利益

製造原価高騰によるコスト増を製品への価格転嫁により、営業利益率は改善する予想

➤ 売上高

ヨーロッパでは、シリンジや生地管の増産体制が整うことにより対前42.8億円増収予想

アメリカでは、生地管の生産能力拡大の効果が通年に及ぶため、対前年12.9億円増収予想

中国では、高性能ガラスを使用したアンプルの販売需要拡大により、対前年6.2億円増収予想

➤ 営業利益

売上高は増加予想だが、減価償却費が増加することから営業利益は減少予想



本資料における予測数値等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいています。実際の業績等は今後の様々な要因により、本資料の記載事項と大きく異なる可能性があります。

